

IV 子ども読書活動推進のための様々な取組

実践① 出水市立西出水小学校附属紫翠幼稚園

1 はじめに

出水市は、鹿児島県の北西部・熊本県との県境にあり、世界的に有名な鶴の渡来地として知られています。出水市は全国でも珍しい市役所内に読書推進室があります。「読書活動日本一のまちづくり」を目標に掲げ、読書によるひとづくり・ふるさとづくりや、幅広い年代で本に親しむ習慣づくりを目指しています。

本園は1974年4月に安楽康彦氏より、出水市に移管されて出水市立西出水小学校附属紫翠（しすい）幼稚園となり、創立52年目を迎えました。3歳児・4歳児・5歳児混合の縦割り2学級で編成し園児数は、32名です。

「絵本や物語に親しみ感性豊かな子どもを育てる」という読書目標のもと、「読書活動日本一」を目指す出水市の園として積極的な活動を行っています。



2 本園の取り組みの紹介

(1) 「職員による読み聞かせ」

読書活動年間計画を基に全職員で実施しています。

ア「降園前の読み聞かせ」

園児の情緒を安定させ、想像力を育てます。

イ「ブックタイム」

同年齢（3・4・5歳児）に相応しい本を選定・紹介しています。

ウ「ハートタイム」

絵本を通して家族の愛情や・命の大切さを伝えます。

エ「遊びの中で」

昆虫の飼育では、図鑑を用いて名前や飼育方法を調べたり、友達と交流を楽しんだりします。自主的に図鑑で調べることが習慣になってきました。家族ごっこでも、絵本をもって参加している姿が見られます。

オ「誕生会・終業式等」

園長・副園長・ALT英語指導助手が、大型絵本・英語絵本・エプロンシアターなどで本の紹介をします。

カ「預かり保育で」

朝早くから登園する園児や降園の遅い園児を対象に、保護者と離れて寂しくないよう、職員は楽しい本を読み聞かせます。

キ「小学校との連携」

附属幼稚園ということもあり、小学校図書館への訪問や司書の先生に読み聞かせをお願いしています。

ク「高校生との交流」

保育士や幼稚園教諭を目指している生徒さんは声色をかえたり、音響を加えたり、工夫して子供たちの心をつかむ読書活動を行っています。



(2) 「保護者ボランティアや年長児保護者の読み聞かせ」

ア「夢のポケットによる読み聞かせ」

29年間、保護者によるボランティア活動が、引き継がれています。活動内容として、七夕・ひな祭り等の年3回の行事にボランティアのお母さん方が参加されて、ブラックシアター・物語劇など演じています。子供たちは、愛情や、ぬくもりを感じています。



イ「年長児保護者による読み聞かせ」

年長児の保護者は、何回も練習して心を込めて読み聞かせを行います。保護者や子供たちにとっても思い出いっぱいの一冊となっています。



ウ「週1回の絵本の貸出」

動物・乗り物・ユーモア・昔話など様々なジャンルの絵本約700冊から週に1回2冊、子供たちが選んで持ち帰り、親子で楽しい読書の時間を過ごせるようにしています。保護者へ『どくしょだより』を発行し、貸し出しの様子を知らせたり、お勧め絵本を紹介したりしています。



3 公共図書館の活用

(1) 「市立図書館」

貸出できる冊数が多く貸出期間も長いので、興味のある本を手軽に借りることができます。子供と一緒に家族も利用できるため、保護者からも好評です。

(2) 「札幌すずらん文庫（宮崎夫妻による出水市への寄贈）」

2013年から現在まで寄贈冊数が7,000冊程あります。出水市内の小学校・幼稚園は、読書推進室を通して、利用することができます。

(3) 「鹿児島県立図書館貸出文庫」

読書推進室を通して、半年間で絵本や紙芝居を60冊程借りることができます。私たち職員もどんな絵本に出会えるかいつも楽しみにしています。

4 おわりに

『読書効果』

- ・「見る力」「聞く力」「調べる力」が育ってきた。
- ・情緒が安定し、想像力が育ってきた。
- ・多くの人と交流し、コミュニケーション力が育ってきた。
- ・心のぬくもりや愛情を感じる園児が増えた。
- ・図鑑をもとに観察することで、図鑑を身近なものとして活用するようになった。
- ・家庭でも絵本を読む機会が増えた。
- ・3図書館（市中央・高尾野・野田）を利用することで、郷土の読書環境が整っていることを認識し、読書推進室の良さを実感した。



今後も感性豊かな子供たちを育てるために、心を込めて読み聞かせを行ってまいります。